

公益社団法人日本精神保健福祉連盟役員並びに名誉会長一覧

平成27年7月現在

1. 理事 (15名)			
【代表理事 2名】			
会長	公益社団法人日本精神科病院協会 名誉会長	鮫島 健 (非常勤)	
理事長	国際医療福祉大学大学院教授・慶応義塾大学医学部客員教授	鹿島 晴雄 (〃)	
【常務理事 3名】			
常務理事	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 副会長	竹島 正 (〃)	
	日本精神衛生学会 常任理事	大西 守 (〃)	
	公益社団法人日本精神科病院協会 副会長	富松 愈 (〃)	
【理事 10名】			
理事	公益財団法人日本精神衛生会 理事長	牛島 定信 (〃)	
	公益財団法人復光会 常勤理事	佐藤 譲二 (〃)	
	公益財団法人矯正協会 総務企画部副部長	米谷 和春 (〃)	
	公益社団法人全日本断酒連盟 理事長	中田 克宣 (〃)	
	一般社団法人日本精神科看護協会 業務執行理事	早川 幸男 (〃)	
	公益社団法人アルコール健康医学協会 理事長	田中 慶司 (〃)	
	公益社団法人日本精神神経診療所協会 会長	渡辺 洋一郎 (〃)	
	公益社団法人日本精神保健福祉士協会 相談役	竹中 秀彦 (〃)	
	公益社団法人日本精神科病院協会 理事	大野 史郎 (〃)	
	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 理事	高畑 隆 (〃)	
2. 監事 (2名)			
	公益社団法人日本精神科病院協会 (医療法人社団根岸病院 理事長・院長)	松村 英幸 (〃)	
	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 監事	丸山 晋 (〃)	
3. 名誉会長 (3名)			
	公益社団法人日本精神科病院協会 名誉会長	栗田 正文	
	慶応義塾大学名誉教授	保崎 秀夫	
	公益社団法人日本精神科病院協会 名誉会長	仙波 恒雄	

【役員任期 平成27年6月19日より
平成29年の定時社員総会終了まで】

注1 公益社団法人日本精神保健福祉連盟定款
第27条 (役員任期) によるものとする。



〈編集後記〉

連盟だよりNo. 54をお届けします。

当連盟は本年6月に役員改選が行われ、鮫島健会長のもと新たな体制がつけられました。鮫島新会長の抱負をご一読ください。

また、日精看岐卓支部が主催された「こころの日」の活動をご報告いただきました。積極的に地域に出て、多くの人々との出会いの大切さを思い知ることができ、紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

秋は精神保健福祉全国大会が山梨県で、全国障がい者スポーツ大会が長崎県で開催されるなど、連盟関係の事業が目白押しです。皆様からのますますのご協力をお願いいたします。

(M. O.)

編集委員会

委員長	大西 守	公益社団法人日本精神保健福祉連盟常務理事
委員	仲野 栄	一般社団法人日本精神科看護協会専務理事
	高畑 隆	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会理事
	塩入 祐世	公益社団法人日本精神神経診療所協会会員 東京精神神経科診療所協会理事
	寺田 一郎	(社福)ワーナーホーム理事長
発行	平成27年10月1日	
発行者	公益社団法人 日本精神保健福祉連盟	
	会長 鮫島 健	
	〒108-0023 東京都港区芝浦3-15-14	
	TEL 03-5232-3308 FAX 03-5232-3309	
	Email : f-renmei@nisseikyoo.or.jp	
	HP : http://www.f-renmei.or.jp	
印刷	社会福祉法人 新樹会 創造印刷	

連盟だより

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

Japan Federation for Mental Health and Welfare

2015-10.1



通刊 54号



公益社団法人日本精神保健福祉連盟 会長就任のご挨拶

公益社団法人日本精神保健福祉連盟 会長 鮫島 健

このたび、(公社)日本精神保健福祉連盟会長にご推挙いただき就任することとなりました。私は10年ほど前、保崎秀夫会長のもとで本連盟の常務理事を務めさせていただいた時期がありました。久しぶりに連盟の仕事に復帰させていただきましたが、光栄に思うと同時に田舎でのんびりしていた老人が突然東京の街中に引っ張り出されたような戸惑いを感じています。

本連盟は創設以来、会長は内村佑之、懸田克躬、島園安雄、栗田正文、保崎秀夫、仙波恒雄各先生が務めてこられました。私は仙波恒雄先生が名誉会長になられたあとを引き継ぐことになりましたが、その責任の重さに改めて身の引き締まる想いがします。錚々たる先達の名を辱めないように全力でその任を全うしたいと考えていますので、よろしく申し上げます。

これからは鹿島晴雄理事長および事務局の皆様、牛島定信、大西守他常務理事を初めとする連盟役員の皆様のご指導とご協力を得ながら、合わせて正会員である加盟10団体、多数の賛助会員の皆様の一層のご協力とご支援をお願いして、連盟の目的に沿った活動と事業が恙なく行われ日本の公益社団法人としての責務が果たせるよう微力ながら貢献したいと考えています。

さて、精神科医療福祉の現状を振り返って見ますと、様々な改革の動きがあります。特に、入院医療から地域医療への転換と長期入院患者の地域移行の問題については、改革ビジョン以来、長い時間が経過していますが、ようやく平成25年6月に精神保健福祉法の改正にともなって、平成26年4月に「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」が告示され、精神障害者に係る施策が動きだしたかに見えます。同年7月には「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的な方策にかかわる検討会」の集中的な協議を経て、「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的な方策の今後

の方向性」が取りまとめられました。この報告書の内容は「精神障害者本人に対する支援」と「病院構造改革」について述べています。このうち前者の「本人に対する支援」については、病院スタッフからの働きかけの促進、グループホームや高齢者向けの住まい等の退院後の居住の場の確保、地域生活を支える医療・福祉サービスの充実の必要性などを挙げています。後者の「病院の構造改革」については、患者さんの地域移行を一層進めることで病床数の適正化を図ること、入院医療においては精神科救急など地域生活を支えるための医療等に人員・治療機能を集約することを求めています。まだ多くの課題が残されていますが、この方向性を目指すために大事なことは医療の構造改革だけでなく、疾病に対する偏見を無くし、障害者を受け入れるコミュニティの形成を前提に、福祉や介護の充実と新たな対策が欠かせません。

わが国の精神科医療福祉は大きな曲がり角にさしかかっていると思われます。このような時代と状況だからこそ、幅広い人々に支えられ長期間にわたって着実な活動実績を有する本連盟は、今後益々その役割を期待されています。

本年度も10月30日に、第63回精神保健福祉全国大会が甲府市の山梨県立県民文化ホールで例年どおり開催されます。大会は連盟と厚生労働省の主催で行なわれ、山梨県、甲府市、山梨県精神科病院協会等の地元の組織が共催します。後援団体として、最高裁、内閣府、法務省など行政、日本医師会、日精協等の関連全国組織のほか地方自治体を初め様々な団体が参加します。大会のテーマは「やさしさでつくる 共生社会」で、精神保健福祉事業功労者表彰とともに、記念講演とシンポジウムとアトラクションが予定されています。

最後に、大会成功のため皆様のご参加を心からお願いしてご挨拶とします。

「こころの日」イベントは大盛況でした

一般社団法人日本精神科看護協会岐阜県支部 事務局長 **堀 みどり**

平成27年5月23日に、岐阜市内の大型ショッピングセンター「マーサ21」において、日精看岐阜県支部主催で「こころの日」のイベントを開催しました。初夏の爽やかな陽気の中、1,000人近い方々が来場し、とても賑やかなイベントになりました。

イベントでは、精神科認定看護師によるメンタル相談、ストレスチェッカーを使ったストレステストと相談、物忘れチェック、臨床動作法の実演、作業療法士によるタイルモザイクと革細工の製作体験など盛りだくさんの企画が好評でした。

メンタル相談は「夜、眠れない」といった相談から、「持病があるので、その病気の患者会について知りたい」というものまで多岐にわたっていました。「こころ」と一言で表現しても、人はそれぞれ抱えているものが違うということを改めて感じました。また、どの方も「誰に相談してよいのかわからなかった」と話されており、専門職が相談にのることで不安を和らげることができたのではないのでしょうか。ストレステストや物忘れチェックでも、自分のストレスや物忘れの度合いが数値になって現れたことで、「生活を見直したい」という声も聞かれました。今回のイベントが、市民の方々のこころにある精神疾患や精神科医療に対する垣根を低くすることにつなが

たのではないかと考えています。

そして、地元の済美高校ディアコニア部の皆さんによるミュージックパフォーマンスと、ぎふ音楽療法協会スタッフ&岐阜病院デイケア「デイケアバンブー隊」の皆さんによる竹楽器などの演奏が、会場を華々しく飾りました。

「ディアコニア」とは、ギリシャ語で「仕える」という意味の言葉だそうです。その言葉が表す通り、済美高校の皆さんは観客に寄り添い、時には手を取り、声を合わせて歌い、ハンドベルやカップスというパフォーマンスで会場を沸かせてくれました。デイケアバンブー隊の皆さんは、竹でできた手作りの打楽器や笛などを持ち寄り、音楽療法士がキーボードで奏でる伴奏に合わせて楽しそうに演奏していました。途中、子供たちが興味を示して一緒に楽器を演奏する場面もあり、みんなで音楽を楽しむことができました。

イベントの最後に会場を紙飛行機が飛び交う風景は、これから未来へ飛び立つデイケアメンバーの皆さんのこころを表しているようで、とてもわくわく、ドキドキしました。来年もぜひ、皆さんにわくわくしてもらえるようなイベントを企画したいと思っています。



大分県こころとからだの相談支援センターの動き

動き
movement

大分県こころとからだの相談支援センター 所長 **土山幸之助**

大分県こころとからだの相談支援センターは大分県身体障害者更生相談所・知的障害者更生相談所・精神保健福祉センターの2つの相談所と1つのセンターからなります。平成22年度から、身体障がい、知的障がい、精神障がいの3障害に対する一体的で総合的な相談機関として再スタートしました。

当センターは野生の猿で有名な高崎山や鶴見岳さらに、湯布院盆地の背後をなす由布岳を遠望する田園地帯のまさに真ん中に立地します。丁度この原稿を書いています7月初めは、センター周囲には田植えを終えたばかりの澄み切った水田が広がっています。

当センターでは、様々な精神的不調に悩む当事者やご家族への支援として、電話や来所による相談をお受けしております。さらに、ご家族対象の研修会や教室も企画しています。成人発達障がい家族教室、うつ病家族教室、デイケア家族会、ギャンブル関連問題家族学習会などです。いずれも2回から3回シリーズで、講演や体験発表、ご家族同士の集いの場

の提供などを行っています。病気などに関する基本的な知識や治療法さらに対応に関して一層の知識を深めて頂く事、ご家族同士の語りあいにより、対応の手がかりなどをつかんで頂くことを意図しています。また、ご本人を支えるにはご家族自身が健康であることが大切ですので、ご家族の日々の暮らしが少しでも穏やかになるようなアイデアを持ち帰っていただければと考えています。

精神保健に携わる立場として、医療者や支援者、ご本人、ご家族がいわば一つのチームとなりスクラムを組んで、病気に立ち向かえるように少しでもお手伝い出来ればと考えております。多忙な精神科臨床を多少なりとも補完できるようなことができればとも考えています。家族教室などで頂いたご意見やご苦労を心に刻み、少しでも支援者向けの研修会などで何らかのメッセージという形で活かしたいと考えます。地域での活動が、当事者やご家族に寄り添うものになるよう今後も心がけたいと思います。



動き
movement

岐阜県精神保健福祉センターの動き ～発達障害者支援センターとの連携～

岐阜県精神保健福祉センター
岐阜県知的障害者更生相談所
岐阜県発達障害者支援センターのぞみ 所長 **丹羽伸也**

岐阜県精神保健福祉センターは、以前より知的障害者更生相談所が併置されていましたが、平成27年4月1日より、所在地が市内下奈良地区から鷺山地区に移転し、岐阜県発達障害者支援センターのぞみ、を同じ建物の2階と3階のフロアに迎え入れて新たなスタートを切りました。1階には身体障害者更生相談所があり、全体としては「岐阜県障がい者総合相談センター」という名称となりました。建物の隣には、県立希望が丘学園がありますが、9月には新たに機能拡充された希望が丘こども医療福祉センターとしてオープンします。県として、障害者のサービスをこの鷺山地区に集約して総合的福祉ゾーンをめざしてゆきます。

発達障害に関しては、生涯を通じての切れ目のない、一貫した児、者へのサービス体系の構築が望まれているところですが、最近ののぞみの相談の傾向として、電話相談は者の件数が増加してきていますが、これは全国的な傾向のようです。今のところ、

者の相談は、児童期に発達障害に関する何らかのサービスを受けたケースは少なく、2次障害とみられる問題を抱えての相談が多いです。児の相談に関しては6歳から12歳の階層の相談が最多ですが、学業に関して特に問題が無い場合、中学以降は相談に訪れなくなることが多く、高校、大学進学して、就労の際、対人関係、社会性の問題で躓くケースが多いです。また、長年精神保健福祉センターで行ってきたひきこもり支援も、背景病理が発達障害であるケースは少なく、発達障害のサービスとの再統合が課題としてあります。全国的には発達障害の成人デイケアの手法を開発する動きがありますが、より障害特性に合致したプログラムの開発が俟たれます。これまで精神保健福祉センターとしては、年齢の区別なく相談を受けてきましたが、今後は、発達障害支援センターと連携してより総合的なサービスを提供していけたらと考えております。